

送 辞

厳しい寒さがまだ残りつつも、やわらかな日差しに春の訪れが感じられる季節となりました。このような佳き日にご卒業の日を迎えられました卒業生の皆さま、おめでとうございます。在学生一同、心よりお祝い申し上げます。昨今の事情により、卒業式という大変思い出深く、大切なイベントがこの様な形で縮小を余儀なくされていることを非常に残念に思います。一刻も早い日常の訪れを心待ちにしております。

皆さまは作新学院大学にご入学なさってから、本日に至るまで様々な経験をされ、今この場にいらっしゃるでしょう。ここで過ごした日々はどのようなものだったでしょうか。

私たちは、この作新学院大学に入学してから、日々の講義でも、サークル・部活動といった様々な場面を通して、皆さまの姿を見てきました。私たちよりずっと大人で、順風満帆な学生生活を送っていらっしゃるように見えた先輩方。皆さまにも悩みはあったのでしょうか。これまで当たり前のように先輩方の背中ばかりを見て、頼りきりでした。今、あらためて自分の未熟さを痛感しています。私たち在校生は、皆さまと過ごした日々を思い出しながら、感謝の気持ちと共に、寂寥の念を強くしております。

私たち在校生は、皆さまから学んだことを胸に、家族や先生方、職員の皆さまなど私たちと関わる全ての方に感謝しながら、今後の学生生活をより良いものにしていきます。そして、これまで先輩方が範を示してくださったように、これからは私たちが後輩の前に立ち、導くことのできる存在となれるよう、精進致します。

この様な見通しの立たない情勢が続く中、不安もあったことと思います。そして、今後の生活も思い描いた明るい未来とは全く変わったものになってしまうかもしれません。しかし、この作新学院大学での多くの出会いと、関わりを経験された先輩方ならば必ず道を切り開くことができると信じております。皆さまは、四月からそれぞれの新しい環境に身を置かれることとなりますが、一つ一つの出会いを大切にしながら、それぞれの道を力強くお進みくださいますよう心からお祈り申し上げます。

最後になりますが、本日卒業・修了される皆さまと過ごした日々は、私たちにとってかけがえのない時間でありました。皆さまに、心よりの感謝とお祝いを申し上げますとともに、新たな門出に際し、皆さまのご健康と更なる飛躍を心よりお祈りして、送辞とさせていただきます。

令和三年三月二十一日 作新学院大学
在学生代表 長山 萌花

